

平成 26 年 12 月 25 日

南 の 風 9 8

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

23日（火）に第30回横浜バスケットボールフェスティバルが、横浜文化体育館で行われました。小中高の選出された選手はもちろんのこと、主催者、指導者並びに関係者、保護者の方が一堂に会し、楽しくも有意義な一日を過ごすことが出来ました。

そんな中、気づいたことを二つ書きたいと思います。

一つ目は中高の指導者の方の、ミニバスに対する関心が年々高まっていることです。ミニバスの選抜チームによるゲームを見ながら交わされる会話や、我々ミニバスの指導者に投げかける質問の中に「スキルが高い。」「どの地区の選手もレベルが高くなっている」「あの選手はどこかの中学に進学するのですか。」といったものがありました。また高校の指導者の方からは、「ミニバスであんなプレーもできるのですね。」「高校の指導者ももっと指導の力量を伸ばさないといけないですね。」といったものがありました。

ミニバスの認知度の底辺がさらに広がった気がしました。以前から、「今の横浜のバスケットボールの発展はミニバス抜きには考えられない。」と語られた方も何人かいましたが、今回のフェスティバルではさらにその思いを強く感じました。

二つ目は、ファンダメンタルスキルは普遍的だということです。

ここからは私見を交えて書きます。ミニから高校（高校のゲームは一部しか観戦できませんでした。）までのゲームを見て、ボールのもらい方、ボールのポジショニング、シュートセレクト、オフェンス時の1対1のスキル、ディフェンスのビジョン、スタンス、ディスタンス、フットワーク、ハンドワークといった個人スキルの重要性を改めて感じました。

端的に言ってそれぞれのカテゴリーの選抜選手でも、ファンダメンタルが身に付いていないと感じた場面がゲームの中で多々ありました。例えば、ミニ中高のどのゲームでも「ボールのもらい方やボールのポジショニング」に課題が見える場面がありました。ボールのもらい方は、ご承知のように普遍的に6種類なのですが、2種類しかできないためにボールのもらい方が非常に窮屈になり、プレスで圧迫されるとボールを失ったり、バイオレーションをしてしまったりすることが何度か見られました。

上述したことは一例です。私は、今挙げた例は、どこのカテゴリーの指導者の責任とかいった問題ではなく、指導者全体が共有して、「ファンダメンタルはスパイラルに指導する」ことを常に意識して実践することが必要だと思います。

横浜の小中高の指導者が、年齢に応じたスキル指導について共通理解し、こういったフェスティバルでの交流を大切にすることが、横浜のバスケットボールに取り組む選手のキャリアを充実したものにしていけるのではないのでしょうか。年末の多忙の中ですが、小中高のつながりを意識した、このようなイベントが開催される意義を強く感じました。

最後になりますが、ミニから中高の選抜選手の皆さん、すばらしいゲームを見せていただきありがとうございました。また、第30回横浜バスケットボールフェスティバルの開催に、ご尽力いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。